

第8回全国鳥獣被害対策サミット
効果的な鳥獣被害対策は連携と共有から
～ 持続可能な農村の将来を考える ～

体験と共有から始った
集落ぐるみの獣害対策

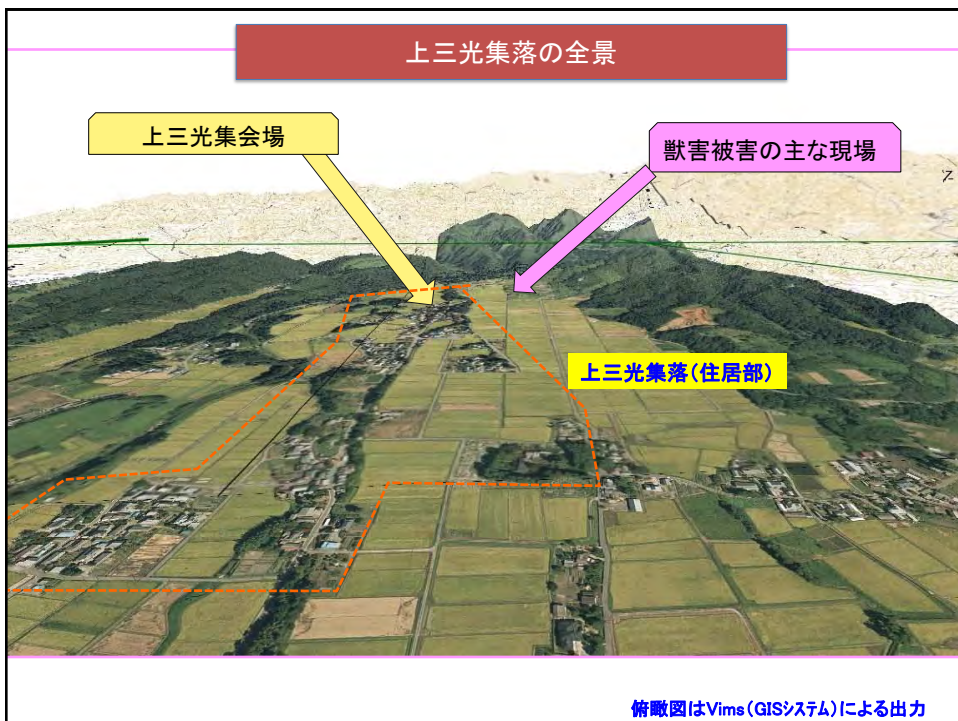
～ 集落資源の活用と環境の改善で集落を再生 ～

上三光清流の会 代表 小柳 繁

主催：株式会社ブランドウ・ジャパン



鳥獣被害と集落の現状



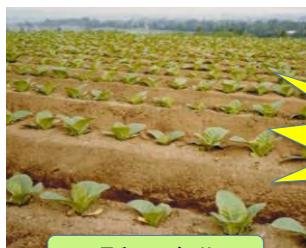
周辺に広がる耕作放棄地



集落環境の悪化と野生鳥獣

集落環境の変化

葉タバコ栽培の減少による遊休農地の増加



昭和40年代

耕作放棄地



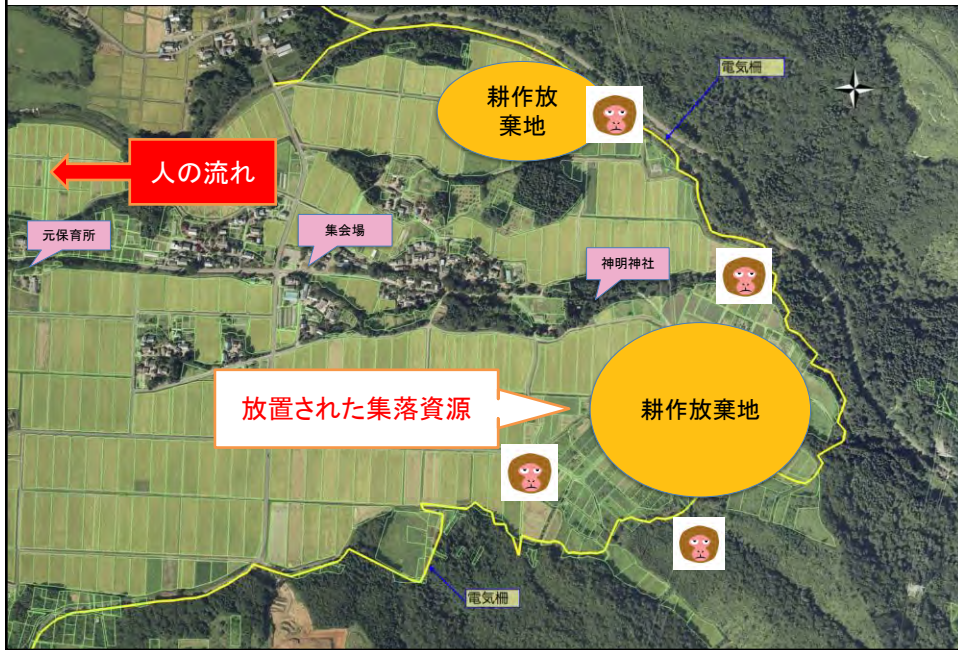
平成10年代

- 平成13年頃に、サルの被害が表面化
- 平成17年、川東地区猿害対策協議会が設立
- 平成23年、川東地区集落横断電気柵を設置
- ※電気柵の設置だけでは効果が不十分！
- 平成25年頃に新発田市でイノシシが発見



イノシシの掘り起こし

サルの出没と集落環境 (GISデータ)



集落環境が悪化した背景

- 非農家の増加
⇒ 農地に対する関心が低下
- 自作農の減少
⇒ 農地需要の減少
- 山林所有者
⇒ 経済性がない里山の放置

薄れていく集落資源への「関心」

「割れ窓理論」から見る集落環境

割れた窓の放置 ➡ 他の窓が割られやすくなる

➡ 環境悪化につながる (例) 捨てられたゴミ、汚れた公衆トイレ

森林や農地などの放置 ➡ 里山・農地の荒廃

➡ 集落環境の悪化 ➡ 獣害問題

「無関心」が生む負の連鎖

背景にある集落の課題



事件は会議室で
起きているわけじゃない！

対策の現場は
集落にある！

獣害対策に求められる「集落の力」

個体群管理

野生動物の数を
管理して被害を減らす
直接的防除

動物

行政、猟友会、関係団体

被害防除

電気柵などで農作物を
守って被害を減らす
直接的防除

人

地権者、集落

・電気柵の維持管理、追い払い

生息地管理

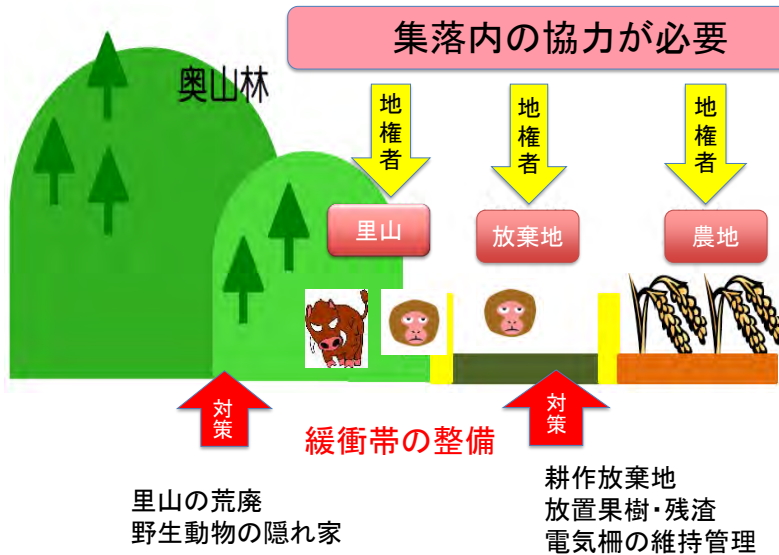
集落周辺の森林の伐採
による間接的防除

環境

地権者、集落

・森林の伐採や里山整備
・耕作放棄地の解消、誘引物除去

獣害対策は集落の現状が反映される



獣害対策が進まない背景

人

- 昼間不在が多く、関心が薄い
- 自分の利益を優先
- 被害度が異なる

環境

- 自己管理できない山林や農地
- 地域資源に対する無関心

難しい合意形成
地域の事情が複雑に絡まる

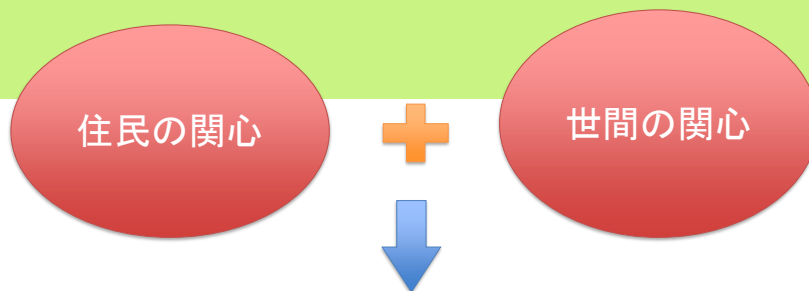
獣害対策のきっかけ
平成24年上三光清流の会の設立

集落がこのままだと、10年後はどうなる？

活動のテーマ
「持続可能な農村」

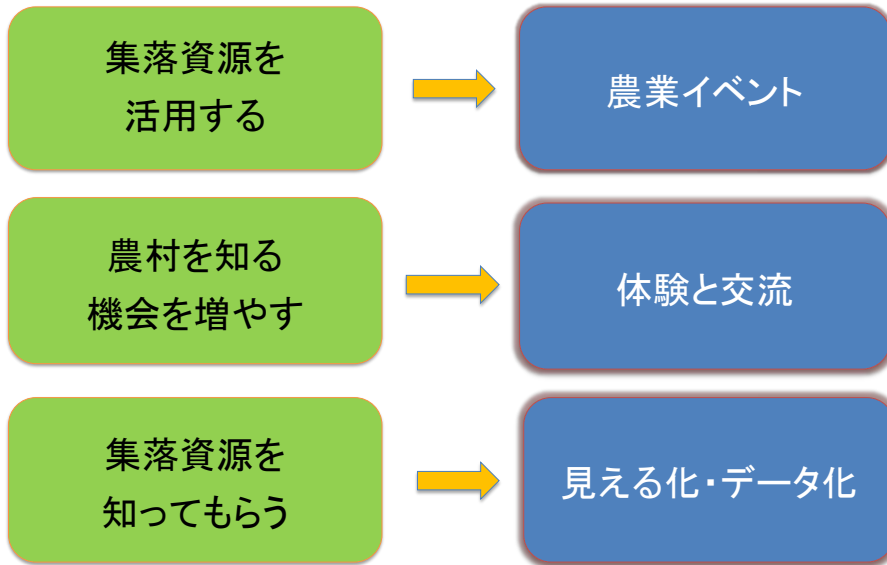
集落に関心をもってもらおう！

- 住民が関心を持つ
- 世間が価値を感じる

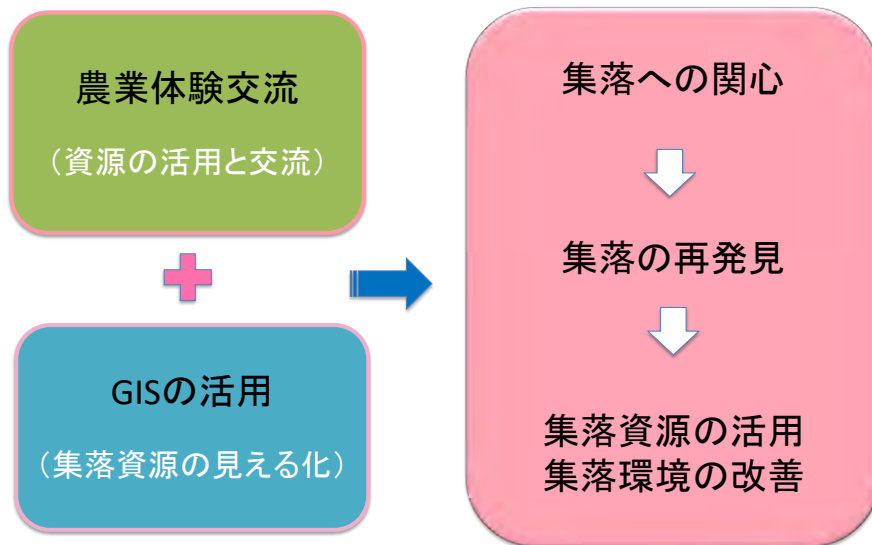


集落再生のための力

関心を持たせる取り組み



キーワードは、「体験する」「共有する」



集落資源に関心を向けよう！

